

子どもはどう変わったか - その1 -

- 湯沢齊え(豊海小), 土橋 稔(菅刈小), 戸塚 智(港北小), 矢部 崇(小松川オニ小)
 岡部十史子(東学大学院), 田中 純江(港合五小), 佐々木 智子(お茶の水大大学院)
 ○田中雅文(三井情報開発), 前田一美(日本福祉教育専門学校), 森川 浩珠(東学大学院)
 深谷 昌志(放送大学)

1 子どもと遊ぶ

休日に、放課後に外で遊んでいる子どもたちの姿をみかけることが少ない。

子どもは今も昔も遊ぶことが好きであろうし、遊んでいないはずはない。その遊びの様相が変化し、以前のよう外でどろんこになって遅くまで遊ぶといった、遊びの姿が消滅してきているのである、と思われる。

そのことは、遊び場の減少、学習熱のたかまりといった子ども社会の変化に大きな原因があると考えられる。そして、その状況の中にTVゲームを中心とした室内ゲームがうまくはいりこんでいき、新しい子どもの遊びを生みだしていった。

外遊びの減少は、その結果として子どもたちから遊び方を知らない子ども、外で遊ばない子どもを生み出したのではないだろうか。

本調査では、アンケート調査とともに学校の休み時間の遊びの観察、生活実態調査を加え、子どもたちの遊びの様子を実証的に明らかにし、さらに外で遊ばない子どもの内面にもせまっていきたい、と考えている。

調査は、具体的には以下の三つである。

- ① 遊びについての意識と行動を尋ねたアンケート調査
- ② 休み時間の教室やグラウンドでの遊び行動の観察
- ③ 子どもたちの1週間の生活実態を尋ねた調査

2. 子どもと勉強

受験戦争というコトバに代表される子どもの進学競争は、単に彼らのみならず家族全体をそのうずの中にかきこんでおり、とりわけ、母親の熱の入れ方は、著しいように思われる。そして、こうした傾向は、地方よりも都市においてとくに顕著にあらわれているといえよう。

本研究はこうした背景をふまえて、以下の二点を目的として行ったものである。

① 子どもの勉強に対する母親の熱の入れ方を類型化するとともに、それらが子どもの勉強に対するとり組み方に、どのような影響を及ぼしているか、を分析する。

② 上に述べたことが都市と地方において、どのように異なるかを分析する。

尚、母親の熱の入れ方は、子どもに対する期待、家庭での学習指導、学校教育への要望、勉強に関する価値観など、また子どもの勉強に対するとり組み方は、学習態度、勉強の習慣、他の生活と比較した場合の勉強の優先度などの側面から捉えた。

分析にあたっては、東京、横浜及び富山に居住する小学生(5, 6年生)とその母親に対するアンケート調査によって、得られたデータを用いた。

結果は当日配布する。